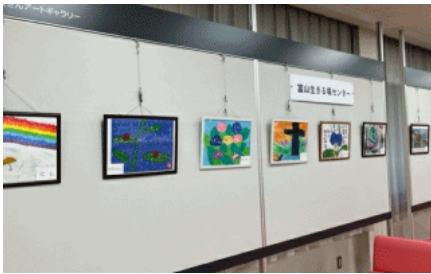


生きる場センターと作品展について

HSK 毎月十二回(一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日)発行
一九九四年八月四日 第三種郵便物承認

今年度、北陸銀行様のご協力を得て、南富山支店様と堀川支店様で作品を展示させていただきました。3月には富山南中央支店様での展示を予定しています。秋には大沢野ウエンディで「地域障害者作品展」に参加させていただき、12月には富山市役所多目的コーナーで開催された作品展に参加しました。



コロナが流行しはじめてから、なかなか皆で外に出ることができなくなりました。その代わりとっては何ですが、私たちの活動を知っていただく意味でも日頃描いている絵やビーズ作品、手芸作品といった物を通じて社会にアピールできないものかと考え、積極的に作品を展示していただけたところを探してきました。

表現したいものは人それぞれ。動物が好きな人、繊細な色使いで風景を描く人、口に筆をくわえて描いたり、足の指に鉛筆をはさんで描いたりと創作スタイルもさまざまです。

上手、下手の評価に関わらず、それぞれが描いた絵をまず見ていただくことが大切だと考えています。1つの作品を作るのに2～3か月かかるケースもありますが、マイペースで楽しみながら創作しています。



編集人：特定非営利活動法人
自立生活支援センター一富山
連絡先：〒930-0024
富山市新川原町5-9
レジデンス新川原 1 F
tel 076-444-3753
fax 076-407-5557
郵便振替：00700-5-47253
自立生活支援センター一富山
発行人：北陸障害者定期刊行物協会
富山市今泉312番地
定 価：100円
年間購読料：400円

* スタッフからのひと言 *

今年の元旦から富山でも震度5強の地震があり能登では震度7の能登半島地震がありました。テレビなどのニュースでは津波が来るから高いところに逃げて下さいと叫ぶ声や響きまくっていました。のちに聞いた話ですが、避難場所へ逃げられた人や山のほうに逃げられた人、近くの高い建物に逃げられた人、さまざまだったようです。東日本大震災が記憶が頭に浮かんだが、はてどこに逃げれば良いのかと思いました。川を上ってくると言われていましたが、まさしく家は川の側です。ずっとテレビから情報を得ようと思っていました。今回事でわかったことは能登半島は、高齢化率7割、過疎化が進み、福祉に関わる者、行政関係者も被災して、福祉サービスも行政も回らない状態。道路が寸断され、水道や電気、電話の生活ラインもスタスタに寸断されてしまったこと。一瞬のうちには生死を左右されてしまうこと。そして真冬の中で寒さも加わり関連死も言われていますが、この事態や状況やどのように理解し、乗り切っていくのかを一人一人乗り切る術は持たないが、みんながどのように助け合えるのかを考えて行くことが求められているんだと思います。

(文責 平井)